

ESSAY いたずら

倉元 信行

2

うるさいっ

大学で集中講義のようなものを頼まれることがある。“無機材料プロセス”とか“先端セラミックス技術”というような題を与えられるのだが私は材料や技術の説明を中心にした話をしたことがない。

そういう事を細かく話してもノートには残るかもしれないが多分頭には残らないものだから。

講義の前に私はノートは取らなくて話だけ聞けばよいと言う。

地方のH大学は丸一日の講義だった たった一日の講義だがその年の正月休みの大半を費やした原稿は大学ノート53ページになっていた。

午前中には私の勤めている化学会社の起源から現在までを色々なエピソードを入れて話し物を製造する会社というものが どういう風に局面を乗り越え事業を拡大したり止めていくかを知ってもらった これには社史がとても役に立った。

午後には基礎研究から始めたセラミックス材料が事業になるまでの自分の経験を話し 会社における研究開発の実例に興味を促した。

予算を貰うための社内の説得 学会や新聞発表 ユーザーの開拓 製品開発 海外展開などその全てが大事なことを。

英会話ができず苦労した話や 米国の会社に特許をライセンスした時の交渉のエピソードなども織り込んだ。

「これで終わります」
話を閉じると拍手が起こった 全員が拍手をしている。

私は心の中で ありがとうと言って教室を後にした。

お酒を飲みながら 東京工業大学の先生にこの話をしたことがある。

「学生が講師に拍手ですか 信じられませんね」

N大学では 教授自身も学生と一緒に話を聞かされた。

終わると先生は どういう話は私にはできません。全く同じ話でもいいからまた次回もお願いしますと

言われ 講義を聞いた学生会員の感想文の束まで送ってくれた。

こんな面白い感じ方をするのかと思うユニークなものがいくつかあった。

初めからざわざわしているのが気になったのはT大学の時である 教室が広くて学生も多かったせいもあるかもしれないが 時々隣と喋っているのがいる。

二日目の講義中 我慢できずに、「うるさいっ」と怒鳴ってしまった。

そして反省した 私は一日目に怒鳴るべきだったと。

成人式での誰かのように 講義を止めることはしなかったが 後味の悪い経験であったことは間違いない。

大学もいろいろ 学生もいろいろである。

